

モニタリングシート（史学科）

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
1	前年度の向上・改善施策の実施状況（成果・課題・継続事項）はどのような状況か。	・自己点検・評価から見る課題に対する向上・改善施策	前年度自己点検・評価結果を踏まえて、初年次演習に関するFD研修を実施した。引き続き、学位授与方針の改定と連動させつつFD研修など向上・改善策を進める。	特になし。	前年度指摘された教員構成の問題について、来年度新規採用人事を通じて改善を図る。
2	経年でみた志願者動向はどのような状況か。	・各種入試結果（入試区分別・高校ランク等）	志願者数の入試区分別変化、高校ランク分布などを把握したうえで、カリキュラム・内容の見直し・改善を進めるとともに、入試広報活動を進めていく。	志願者数は減少しているが高校ランク分布の中心は中程度を維持し続けており、また京阪神地区以外からの志願者が多い。カリキュラムや入試広報活動を進める際には、このような点を踏まえなくてはならない。	志願者動向の特徴を踏まえたうえで、入試広報活動を進めるとともに、学位授与方針、人材養成・教育研究上の目的等の見直しを進めていく。
3	経年でみた新入生の動向はどのような状況か。	・新入生アンケート（第一志望・選択理由・本学への期待等）	志望理由や期待など新入生アンケート結果を踏まえて学科としてのFD活動および教員各自の授業および指導の改善を進めていく。	史学科新入生の「本学を選んだ理由」で最も多いのは「学びたい学問がある」という回答であるが、高校で学ぶ教科と学問の違いを理解している新入生は少ない。新入生が専門科目の履修へ円滑に進めるよう、初年次配当科目の一層の改善を図る必要がある。	カリキュラムの見直しの際には、新入生アンケートの結果を踏まえたうえで、初年次配当科目についても見直し・改善を検討する。
4	DP・CPと関連したカリキュラムが各学位プログラムレベルで適切に設計されているか。	・カリキュラムマップの状況 ・ALCS学修行動比較調査（経験） ・卒業時アンケート（経験）	昨年度DPの文言とカリキュラムマップを見直し、当学科のカリキュラムにより整合するものとした。今年度は、全面的な改定に向けて引き続き検討する。	現行のDPでは、当学科のカリキュラムで修得できる能力にはかなり大きな偏りが存在している。当学科の特色を損なわない範囲で、極端な偏りを減じるための対策が必要である。	今般のDP改定にあたっては、当学科の特色を保ちつつ全学DPとの整合を図ることを意識して取り組む。また、新しいDPに基づくCPを策定し、より良いカリキュラムの設計を目指す。

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
5	カリキュラム・授業は、適切に運営されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート ・ALCS 学修行動比較調査（経験） ・卒業時アンケート（経験） ・最低修業年限卒業率 	授業における学生の反応、学修成果、各種アンケート結果などを参照しつつ、DP・CP に沿ったカリキュラムの運営に引き続き努める。	選択必修科目はカリキュラムとして想定されていない組み合わせで履修することも可能であり、適切な科目選択を徹底できない場合もある。カリキュラムに沿った適切な科目を履修させるための方策が必要である。	一部の選択必修科目については、新カリキュラム策定に合わせて履修条件を見直すなど、カリキュラムに沿った履修を促す改善策を検討する。
6	DP にもとづく学修成果の到達度の状況。	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェネリックスキル測定テスト（3回生） ・ALCS 学修行動比較調査（修得度） ・卒業時アンケート（修得度） 	授業における学生の反応、学修成果、各種アンケート結果などから各 DP の修得状況を観察し、カリキュラムの改善に必要な知見を蓄積していく。	外国語の運用能力、社会性・自律性、自立性といった修得度の低い能力について、当学科の特性との整合を図りつつ、可能な限り修得度を高める必要がある。	DP と CP およびカリキュラムの改定にあたっては、当学科の特性との整合を図りつつ、従来修得度が低い能力の修得度をできるだけ高めることを意識して取り組む。
7	進路・就職及び免許・資格取得状況。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職結果データ ・免許・資格取得状況 	昨年度卒業生の免許・資格の取得状況には大きな変化はみられないが、就職希望者は例年より約 10%増加して 92%に達し、就職決定率は 97.1%と例年並みであった。	特になし。	卒業後進路に関する学生の考え方の変化が一時的なものか否かを注視していく。
8	各科目の成績および卒業論文・研究が適切に評価されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目の成績分布 ・卒業論文・研究の判定結果 	<p>複数クラス開講科目では、成績評価基準に大きな相違が生じないよう、各科目の担当教員間で調整を図っている。</p> <p>卒業論文は各コースの演習 II(卒業研究演習)担当者を含む複数の教員が判定しており、カリキュラムとの齟齬はない。</p>	特になし。	卒業論文の評価を DP に基づく卒業時修得能力と適切に関連づける方法について検討する。

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
9	職位・年齢のバランス、非常勤比率に留意し、かつ、カリキュラムに基づく教員組織となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・所属教員の状況 ・科目群別非常勤比率 	<p>カリキュラム運営に支障のない範囲で、職位・年齢・性別について偏りのない教員組織編成を実現するよう引き続き努める。</p> <p>当学科専門科目における非常勤講師比率は、他学科と比較して低く抑えられている。</p>	<p>現状の教員組織においては、女性比率が低く、また年齢構成が40歳代後半以降に偏っている。この2点を改善していく必要がある。</p>	<p>左記の教員構成の問題について、来年度新規採用人事を通じて改善を図る。</p>
10	学科個別のFDについて、課題認識および今後の方向性、外部環境を踏まえたFDを実施できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・FDの取り組み状況 ・前年度点検シート ・自己点検・評価から見る課題に対する向上・改善施策 	<p>前年度までと同様に、教員間の意見交換によってFD活動が必要な問題点を抽出し、その問題点に関するFD活動を進めるよう努めている。</p>	<p>限られた時間の中でFD活動を進めていくためには、多数存在する問題の中から優先してFD活動の対象とするものを選ぶことが重要である。</p>	<p>今年度はDP等の改定とカリキュラムの改革に関連する問題に絞ってFD活動を実施する。</p>
11	上記以外で「継続すること」「課題」「次へのアクション」「全学レベルで検討すべき事項(提案)」があれば入力	<ul style="list-style-type: none"> ・各種データ 	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>